

センター月だより

〒 507 0034 多治見市豊岡町 55 ヤマカまなびパーク4F TEL 0572- 23 - 3455 FAX 0572- 26 - 8813

指導日誌より

= 多治見地区 =

女子高校生 2人が駅北のコンビニにたむろしていた。いつも見かける子で、注意してもすぐに帰らないので 15分くらい話を聞いた。(9/8 特 14)

下校中の高校生に声をかけた。どの子もあいさつを返してくれた。昭和の小校区の指導員と出会い、交流した。(9/13 精華 2)

ゲームコーナーや買取王国で、親子で来ている子どもたちに出会い、声をかけた。カラオケのシダックスが閉まっていてびっくりした。(9/13 南姫 9)

高校生や小学生は元気で、さわやかな挨拶が交わされている。9/14 多治見高校西方で、小学生の写真を撮るといふ不審者情報があり、その辺りを重点的に見回った。(9/15 養正 1)

脇之島小児童の下校時に声をかけた。9/24 の運動会をめざし、応援の練習にも気合いが入っている様子が伺えた。(9/15 脇之島 12)

小学生、中学生とあいさつを交わした。いずれも気持ちのよいあいさつをする児童、生徒がほとんどだった。中学生男子数名で、カバン等を一人に持たせている集団に声をかけた。ジャンケンで順に持っているようだった。(9/16 滝呂 8)

根本交流センターでは、習字教室や卓球、バドミントンなど、たくさんの子が楽しそうに取り組んでいます。前日に大雨洪水警報が出ていたので、通学路周辺なども見て回りました。(9/21 根本 10)

運動会の後で子どもたちは少なかったが、出会った子からは元気な返事が返ってきた。(9/24 北栄 1)

= 瑞浪地区 =

駅周辺はタバコのゴミがいつもより多くあった。駅では JRを利用する高校生が、親の迎えを待っていたので声をかけた。(9/12 釜戸 G)

昼間、瑞浪小では運動会に向け練習中の子どもたちが熱中症で多数搬送されたとのことだったが、夜半の巡回では、散策やウォーキング中の成人を多数見かけたものの、買い物中の親子を除き、子どもたちの姿はなかった。(9/14 稲津 F)

夜、健康のために歩いている人たちには出会いましたが、子どもたちにはなかなか出会えませんでした。駐在さんも一緒に回っていただき、自販機荒らしが多いとのことで見て回りました。(9/15 陶 E)

朝、大雨警報が出ており、10時過ぎ頃、警報解除となったため、市内の学校の多くは休校となり生徒た

◆◆◆ 9月 声かけ活動の結果 ◆◆◆

	多治見地区	瑞浪地区	土岐地区	合計
指導人数	5	0	15	20
声かけ人数	473	71	270	814
指導員参加者	68	34	43	145

ちの姿は少なかった。9/23 日吉1)

= 土岐地区 =

雨のためか、三洋堂には学生の姿はなかった。駅では高校生に声かけが出来た。中には元気に「こんにちは」と返してくれる子もいた。(9/6 泉8)

駐輪場前にバイク3台と少年7人がたむろしていて、声をかけると全員から返事が返ってくるが、バイクは暴走族のような改造車だった。駐輪場を利用する人たちには迷惑だと思いました。(9/7 泉9)

雨降りであったが、元気なあいさつができていた。中学生の下校時には雨も上がり、自転車通学の子も安全に気を付けて下校していた。(9/13 鶴里4)

朝、小中学校登校時に声かけをする。どの子も元気で返事を返してくれた。(9/13 曾木5)

土岐市駅前の地下道への階段で、有職無職の少年が5人、女子2人がたむろしていた。男子3人がタバコを吸うのでやめるよう声をかけ、話を聞く。従う子もいたが、従わない者もいた。(9/14 肥田7)

2週間程前に中央通りのパチンコ店で少年が補導されたとの情報があり、行って店員さんに聞くと、それ以降は来店していないとの事だった。(9/14 特A)

駅前の階段に10人程の少年少女が座り込み、喫煙する子もいたので警察に連絡した。直ぐにパトカーが来てくれた。(9/15 特B)

中学校の体育大会終了後、中学生が平成公園に集っていた。そこへ自転車の2人乗りをして来た少年2人に口頭注意する。交番にも連絡しパトロールをお願いする。交番の職員の皆さんはいつも積極的に協力して下さり、声もかけて下さるのでありがたい。(9/17 下石2)

活動予定日、警報発令中のため1日延期して実施した。コンビニで保護者と買い物をしていた小学生に声をかけた。知っている方なので、保護者の方ともあいさつができた。(9/21 駄知6)

日本では38%・・・。

ちょっとショックで信じ難い数値でした。10月2日のTBSテレビ、サンデーモーニングの「風をよむ」で報じた調査の結果です。横浜市の病院での点滴への異物混入事件や、相模原市での障害者施設殺傷事件等を受けて、近年の日本社会で社会的弱者に冷たい空気が見られつつあるとの報道でした。

その中で、2007年米国のシンクタンク(ピューリサーチセンター)が各国の社会的傾向を調べた結果が紹介されました。「政府は自分で生活できない人を救うべきか」という貧困と社会の関係を問う質問に対し「救うべきだと思わない」と答えた人の割合がイギリスやドイツ、中国などはおおむね7~9%で、更に貧困を自己責任とみなす米国でも28%なのに、何と日本は38%と調査47か国中で最も高く、世界で最も貧しい人に冷たい国とも受けとれると報じました。

ジャーナリストの青木理氏は番組で...事件は時代や社会の歪みを映し出す。貧富の格差、地方と都市の格差の中で将来に対する不安が、ある種不寛容な、排他的な行為に噴き出してきている。ヘイトスピーチもおそらく同じ。こういう時には、事件がどういう社会の歪みを映しているのかを考えることが必要で、もうひとつは政治がきちんとしたメッセージを発していくべきではないか...とコメントしました。

< センターから > いい意味での おせっかいな大人に

10月8日、土岐市文化プラザに於いて「3地区合同研修会」を開催しました。県の東濃教育事務所から安藤宏先生においで頂き、最近の子どもたちの様子や課題についてお話しいただきました。

講演では、最近では暴力行為や街でたむろする子どもが減少しているものの不登校が増加するなど、子どもたちの問題は内向きで非社会的行為が増えており、「心のケア」を必要としている子どもが増加しているとの話がありました。また、Wi-Fi環境が進んだ現在のインターネット社会では、ゲーム機や音楽プレーヤーでも簡単にスマホやPC並みにメールやカメラ撮影等が出来てしまうため、まず大人がそうした機器のしくみや危険性を理解し、子どもをネットの被害から守る取り組みが必要とも力説されました。

最後に、子どもたちには「声かけ」が必要で、特に淋しがっている子どもや認められたい子どもたちには、いい意味でのおせっかいな大人の存在が貴重で、「声かけ活動」が青少年の健全育成に役立っているという信念を持って活動していただきたいとお話いただきました。